## 実践事例と分析

### 実践事例　「相手を深く理解するためには」（実施学年：２学年）

１　本単元の「ものがたりの授業」構想図

**『ものがたり』の授業**

★授業者のねがい（授業を通して生徒に期待する成長や変容）
　今までの自分の『聞く』姿勢を思い返し、相手を深く理解しようと意識し、工夫し実践することで、『話す』ことと同じくらい『聞く』ことはおもしろいと感じてほしい。

●題材（　英語を『聞く』こと　）に対する「ものがたり」の変容

（学習前）
　自分の英語を伝えるのは楽しいが、ネイティブの話す英語は自分には速いし、難しい単語もあるので、聞き取れないから理解できない。

**探究的な学び**
**他者と語り合う**

（学習後）
　自分から聞こうと意識を変え、メモを活用したり、相手に質問をしたりすることで、相手のことが理解できるようになり、伝えること以外の楽しさを感じられた。

≪（授業者が考えた）単元学習後の「振り返り」例≫　　＊「自己に引きつけた語り」部分
　普段、ネイティブの方と英語を話したり、英語を聞いたりする機会はないので、そういう機会があったときのために授業を通して文法や単語を学び、コミュニケーション活動を通して会話ができる準備をしてきた。しかし実際、留学生やジョン先生と話をした時に、自分の考えや思いを話すことはできたが、相手の話す英語が速かったり、難しい単語が多かったりと、自分には理解できないと諦め、理解したふりをして話を流してしまった時があった。そして、相手のことを深く理解するということができていないことが単元を通してよく分かった。
　しかし、聞こうとする意識を持ち、さまざまな工夫をすることによって、相手のことが深く理解できるようになった。アイデア次第で、話し手のことを理解することが分かった。
　話す、聞く力がついてきたので、外国の方と会ったときに話すことを諦めたり、恐れたりするのではなく、意欲的に相手のことを尋ねたり、自分のことを伝えたりすることで、コミュニケーションをとっていきたいと思った。
　ただ会話中に、毎回メモをとったり、何度も聞き返したりするのはいかがなものかと思った。相手に失礼ではないだろうか。

２　本単元で育成する資質・能力

| | | |
|---|---|---|
| 知　識<br>技　能 | ・コミュニケーションを行う際に、相手の話した考えや気持ちなどの内容を聞き取り、正確に理解する技能を身につける。 | ○「メモ」「聞き返し」「質問」「例を出す」など、相手を深く理解するための方法を知り、身につけることで相手の考えや気持ちなどを正確に理解することができる。 |
| 思　考　力<br>判　断　力<br>表　現　力　等 | ・相手が話した内容に関して、自分の理解度によって、相手を深く理解するための適切なスキルを使い分け、使用する力を養う。 | ○相手の話に応じて、どのように内容を理解できるかを考えたり、適切なスキルを使ったりして、相手のことを深く理解することができる。 |
| 学びに向かう力<br>人間性　等 | ・話している相手のことをよりよく知ろうとする態度を養う。<br>・仲間と共に、問題解決を図ろうと協力する姿勢を育む。 | ○相手を深く理解するための方法を自ら積極的に試そうとしたり、問題解決を図るために、仲間と協力しようとしたりすることができる。 |

## 3　単元構成（全４時間）

| 時間 | 学習課題（中心の問い） と ◆学習内容 |
|---|---|
| 1 | どうすれば話している内容が理解できるだろうか？<br>◆相手が話している英語を聞き取るにはどうすればよいかを考える。<br>◆ALTがスピーチを行い、生徒は考えた手法を試す。 |
| 2 | 話している内容を理解できるだろうか？<br>◆①Request（お願い）②Take notes（メモ書きをする）③Organize（整理する）を活用し、実践を行う。 |
| 3 | 話している内容を深く理解するには？<br>◆イラストを説明するゲームを通じて、解決策を考える。<br>◆①説明　②類似した例　③質問　を活用する。 |
| 4<br>（本時） | 相手を深く理解するには？<br>◆班でALTからスキルを用いて情報を聞き出し、理解したことが正しいか、教師に確認してもらう。 |

## 4　本単元で表出した生徒の「ものがたり」例

振り返り（単元を終えて）

私はもともと英語が好きで、得意な教科の1つでもあるのでこういうスペシャル授業はいつもと変わったようなことができて楽しいです。どんなことをやるのかと思っていたら「リスニング力」を上げるためにジョン先生の言っていることを理解しようというところからはじまりまって、すごいワクワクしました。知らない単語もあったけど、大体意味をつかめました。でも、やっぱり知らない単語があると、完ぺきに理解したとは言えないので、次の授業では質問をしました。すると全て言っていることがわかってすっきりしました。私はあと2時間もあるのに、他に何をするんだろうと疑問に思っていました。もっと他の題材というか内容でくるのかなとか思っていたら内容の深掘りだったのでびっくりしました。そのとき、正直他のにも挑戦してとにかく練習したいと思ったので少しもやもやしました。「じゃあどれがジョン先生の言っている1つかーかー？」と言われて、たしかに全然そこらへんからなかったなぁとなり、もやもやがなくなりましたが。今までずっとただ、きいて、内容を理解して、ということしかやってこなかった私は深く理解するということを知りませんでした。到達で質問を考えてジョン先生に言いに行く。それをくり返すたび、むこうからのただの一方通行じゃなくなっていることに気がきました。会話していくことがだんだんもっと楽しくなりました。前よりも知ろうとするようになりました。この4時間でだいぶ「聞く」ということに対してのイメージが変わりました。今後も留学生などと話すとき、ふみこんで会話したいです。

## 研究の分析

### 研究内容（１）コミュニケーション能力を段階的に獲得するためのカリキュラム設計

１～２年生の２年間において、コミュニケーション能力の段階的な獲得に向けての研究を行った。生徒の振り返りやアンケートの見取りを通して、各単元においてどのような成長や困難があったかを分析した。

１年生の授業「あなたの知らない私」（１１月実施）では、ALT にスピーチを行った。生徒の振り返りには、「期待感」や「緊張感」に関する記述が多く見られた。英語話者と実際に話す機会を設定することは、生徒の学習意欲によい刺激を与えると感じた。また、自分で考えた英語が相手に伝わるという経験を通して、自身の成長を実感した生徒も多くいた。しかし、失敗を恐れたり困難を感じたりする生徒も多く、31％（N=102）の生徒が英語で会話することに楽しさを感じていなかった。（単元後のアンケートより）そこで、授業中にコミュニケーション場面を多く設定し、生徒同士でも英語を話す場（練習する場）を増やすこととした。

| | 文法能力 | 社会言語能力 | 談話能力 | 方略能力／CS |
|---|---|---|---|---|
| １年次 | a　代名詞（人称、指示）<br>b　接続詞（because）<br>c　助動詞（can）<br>d　前置詞<br>e　動詞の時制及び相など（現在形、現在進行形、過去形、過去進行形） | ○言語の働き<br>・命令、質問、申し出、依頼（please, can 等）<br>○丁寧さの度合い<br>・敬称（Mr. / Ms.）<br>・please の使用 | ・情報や内容を整理する<br>・話を組み立てる（導入、展開、まとめ）<br>・つなぎことば（first, second, third 等） | ・Mime（ジャスチャーなどの非言語手段で伝える）<br>・Literal translation（知らない語句の代わりに、他言語から直訳して表現する）<br>・Listener support（相槌を打つ）<br>・Asking for repetition（対話者に繰り返しを依頼する） |
| ２年次 | b　接続詞（when, if, that）<br>c　助動詞（will, must）<br>d　前置詞<br>e　動詞の時制及び相など（未来表現、現在完了形、現在完了進行形）<br>f　比較表現　g　to 不定詞<br>h　動名詞　j　受け身 | ○言語の働き<br>・申し出、依頼（could, may, will, would 等）<br>○丁寧さの度合い<br>・can, could の使い分け<br>・will, would の使い分け | ・情報や内容を関連づける<br>・事実と自分の考え、気持ちを区別する<br>・つなぎことば（besides, next, in fact, though 等） | ・Over-explicitness（通常求められるよりも多くの語を用いる）<br>・Self-rephrasing（情報を補足して言い換える）<br>・Echoing/ Represent（対話者の発話を繰り返す）<br>・Asking for clarification（対話者の発話内容の明確化を求める） |

＜毎時間の振り返り＞

**振り返り（授業を通しての意見、感想など）**

be動詞と一般動詞を使い分けることが難しかった。英文を通して「have」の新しい使い方を学べた。自分はhaveの意味を3つしか知らず、他にも意味があることに驚いた。今回の英作を通して実際にみんなの知らない私を紹介することができると思った。次回の授業では初めて英語でスピーチをするので、きん張している。

英語でスピーチをする事はとても楽しかった。スピーチをする上で難しかった事は、スピーチに流れを感じさせる事です。1つの英文を読んだだけでは音読になってしまうので、日本語でスピーチするように、自然な感じで発音にも気を付けてスピーチをしました。アドバイスをもらって、スピーチを改善することができたので良かったです。次に、スピーチをする時は、今回もらったアドバイスに気を付けたいです。

質問をすぐに考え、それを相手に聞くことがとても難しかった。スピーチを聞くだけならば簡単だけれど、相づちをうったり、質問をしたりして、英会話をすることは難しいことだと分かった。たくさんの人とスピーチをして、英会話をすることに慣れたい。はずかしいという気持ちを無くすと、スピーチは明るく楽しくできると分かった。

5W1Hを積極的に使った。すると、幅の広い様々な回答が返ってきた。このことにより、相手のことを深く知れるようになった。Do, Doesを使った質問もした。自分の知りたい情報を確かに得られた。まだ質問することにはなれていないので、スピーチを重ね、すらすらと質問ができるようになりたい。

スピーチに対して質問する時に、コツがあることが分かりました。ただ、ぼく然とした質問をするのではなく、質問の内容や話の流れを意識した的確な質問をすることにより、スピーチをより盛り上げられることが分かりました。ALTのスピーチに対して様々な質問をして、ALTについて深く知ることはとても楽しかったです。今日をきっかけに、たくさんの人とスピーチをしたい！と思いました。

場では練習通り声に出したり、ジェスチャーをすることが上手くいきませんでした。でも、笑顔で、出来るジェスチャーをして、スピーチを楽しみました。最後のジョン先生からの質問には自分が考えていることを英語で言うことができました。外国の先生に英語でスピーチをするのは初めてだったので、きん張したけれど、自分の好きなものや人を伝えることができたので楽しく、良い経験になりました。

＜単元後の振り返り＞

**振り返り（単元を終えて）**

英語でスピーチをする事は初めてのチャレンジだったので、1時間目には先が不安でした。2時間目はとても楽しかったけれど、難しい授業となりました。自分の好きなものや人をジェスチャーを混じえながら英語で伝えることが出来たので楽しかったです。しかし、スピーチの流れを作り、感じ取る事が難しかったです。この時間でもらったアドバイスを活用し、スピーチを上達させることが出来ました。3、4時間目では僕が苦手とする質問力をきたえました。スピーチに即興で質問を考え、文法を守った英文で質問するのは困難を極めました。しかし、何回も質問すると、質問の質が上昇し、すぐに質問が出来るようになりました。でも、自分が聞きたい情報を英語で完璧に質問が出来ないので、いつか出来るようになりたいです。5時間目には英語で質問するコツを学びました。コツは日本語で質問する時のコツと似ていると分かりました。そして、6時間目にはジョン先生に初めて英語でスピーチをしました。練習と同じようにジェスチャーを混じえながらスピーチをすることは上手く出来なかったけれど、満足のできるスピーチができたので良かったです。改善点として、きん張しない事ともっとジェスチャーをして自己主張をする事だと思いました。2年生や3年生の時に英語でスピーチをする時には、今回の改善点を意識したいと思います。

２年生では、コロラド州立大学からの留学生を本校に招待し、日本や香川の良さを伝える交流授業を行った。その結果、81％（N＝101）の生徒が英語で会話することは楽しいと回答した。多くの生徒が、自分の考えを相手に伝えられたという喜びや、自分たちの住んでいる地域の良さを英語で伝えられたという達成感を感じていた。この経験は、英語を学ぶ意味や価値の実感にもつながったと考える。しかしその一方で、65％の生徒が「聞くこと」に対して困難を感じていた。自分の考えを話すことはできたが、相手の英語を聞き取り、相手の考えや気持ちを理解することはできなかったのである。普段の授業では味わえない体験をすることで、生徒たちの新たな課題が見つかった。

そこで、２年生後半では【伝え合う姿】に焦点を当てて、特に「聞く力」の育成に重きを置いた実践授業（１１月実施）を行った。グループで試行錯誤する場面を設定し、他者から様々な意見を取り入れることで、生徒は自分なりの解決策を導き出していた。また、解決策を考えさせるだけでなく、実際に実践させた。失敗や成功を体験することで、生徒の学びは促進し、学習意欲の向上につながることが分かった。「聞くこと」について、相手の発話を繰り返したり聞き返したりするなど、スキル面での改善は見られたが、相手が言いたいことを理解するまでには至らなかった。

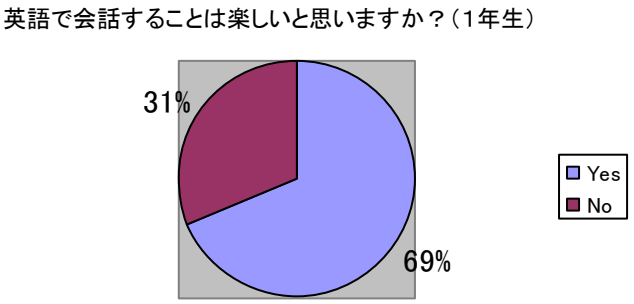
| | 文法能力 | 社会言語能力 | 談話能力 | 方略能力／CS |
|---|---|---|---|---|
| ２年次 | b　接続詞（when, if, that）<br>c　助動詞（will, must）<br>d　前置詞<br>e　動詞の時制及び相など（未来表現、現在完了形、現在完了進行形）<br>f　比較表現　g　to 不定詞<br>h　動名詞　j　受け身 | ○言語の働き<br>・申し出、依頼（could, may, will, would 等）<br>○丁寧さの度合い<br>・can, could の使い分け<br>・will, would の使い分け | ・情報や内容を関連づける<br>・事実と自分の考え、気持ちを区別する<br>・つなぎことば（besides, next, in fact, though 等） | ・Over-explicitness（通常求められるよりも多くの語を用いる）<br>・Self-rephrasing（情報を補足して言い換える）<br>・Echoing/ Represent（対話者の発話を繰り返す）<br>・Asking for clarification（対話者の発話内容の明確化を求める） |
| ３年次 | a　代名詞（疑問、関係代名詞）<br>b　接続詞（that）<br>d　前置詞<br>g　to 不定詞<br>i　現在分詞や過去分詞の形容詞としての用法<br>k　仮定法 | ○言語の働き<br>・指示、助言（might 等）<br>○丁寧さの度合い<br>・may, might の使い分け | ・内容の概要や要点を捉える<br>・つなぎことば（then, on the other hand, however, so, for example, in other words 等） | ・Response rephrase（対話者が理解できない語句を言い換える）<br>・Comprehension check（自分の発話内容が相手に理解されたかを確認する）<br>・Asking for confirmation（自分が相手の発話内容を理解できているかを確認する） |

＜単元後の振り返り＞

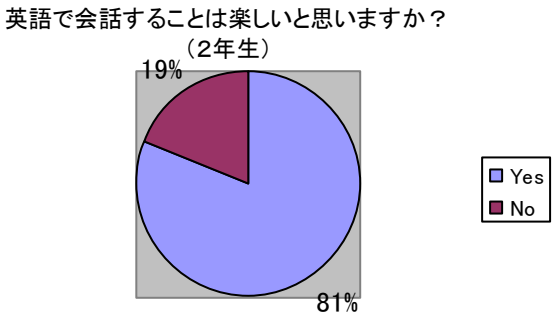
**振り返り（単元を終えて）**

私はもともと英語が好きで、得意な教科の1つでもあるのでこういうスペシャル授業はいっもと変わったようなことができて楽しいです。どんなことをやるのかと思っていたら「リスニング力」を上げるためにジョン先生の言っていることを理解しようというところからはじまりまって、すごいワクワクしました。知らない単語もあったけど、大体意味をつかめました。でも、やっぱり知らない単語があると、完ぺきに理解してたとは言えないので、次の授業では質問をしました。すると全て言っていることがはっきりしてすっきりしました。私はあと2時間もあるのに、他に何をするんだろうと疑問に思っていました。もっと他の題材というか内容でくるのかなとか思っていたら内容の深掘りだったのでびっくりしました。そのとき、正直他のにも挑戦してとにかく練習していこと思ったので少しモヤモヤしました。「じゃあどれがジョン先生の言っている1ページ?」と言われて、たしかに全然そこらへんからないなとなり、モヤモヤがなくなりましたが。今までずっとただ、きいて、内容を理解して、ということしかやってこなかった私は深く理解するということを知りませんでした。到達で質問を考えてジョン先生に言いに行く。それをくり返すことで、むこうからのただの一方通行じゃなくなっていることに気がきました。会話していくことがだんだんもっと楽しくなりました。前よりも知ろうとするようになりました。この4時間でだいぶ「聞く」ということに対してのイメージが変わりました。今後も留学生などと話すとき、ふみこんで会話したいです。

＜１年次のアンケート結果＞




＜２年次のアンケート結果＞




また、令和５年度よりチェンマイの中高校生との交流も行っている。時差の関係もあり、希望者のみの参加ではあるが、毎回同じグループで交流を行っているため、生徒同士の関係が徐々に構築され、互いの国の文化や学校生活等について、授業で学習した単語や表現を用いながら意欲的に交流する姿が見られた。

＜交流に参加した生徒の振り返り＞

自己紹介はできたけど、質問の内容が習っていない文法の物も多くて、とても大変だった。また、授業で習った「think」を使えてとても嬉しかった。日頃から、授業でのコミュニケーションを大切にしようと思った。

**研究内容（２）試行錯誤しながら自分の考えや気持ちなどを伝えるための単元構成の工夫**

２年生の実践授業では、教師が意図的に困難（課題）を設定することで、生徒たちの試行錯誤を促した。

１時間目

留学生との交流において課題となった「聞く力」について確認を行った。実際に ALT に話をしてもらう中で、「速くて聞き取れない」「聞いたことがない単語がある」「何を言っているのか分からない」という状況を作り出した。そして、その困難をどのように解決していくかをグループごとに考えた。

【生徒の振り返り】

1時間目

| 日付 | 学習課題 | 本時を通して考えたこと・印象に残ったこと | 今の心境！ |
|---|---|---|---|
| 10/25 | どうやったら言っている内容を理解できるだろうか。 | 単語だけをききとることでだいたいの内容をつかむことができました。ゆっくりしゃべってもらうと「in」とか「to」とかもききとりやすかったです。 | ! ～ まだ完ぺきにききとれない… |

２時間目

それぞれのグループで考えた方法を実際に試す時間を設けた。その際、生徒から多く出たのは、①お願いをする（ゆっくり話す、何度か言ってもらう等）、②メモの活用（聞き取ったことを可視化する）、③情報の整理（要点をまとめる）、であった。これら３つを全体で確認し、必要に応じて活用するよう伝えた。グループごとに理解度が異なったため、それぞれが試行錯誤し、内容理解に努める意欲的な姿が見られた。

【生徒の振り返り】

2時間目

| 日付 | 学習課題 | 本時を通して考えたこと・印象に残ったこと | 今の心境！ |
|---|---|---|---|
| 10/26 | 解決策を利用して話している内容を理解できるだろうか？ | 単語だけをききとったあとに、分からないものをきき返すことで内容がはっきりと分かるようになりました。前回理解できなかったところが分かってすっきりしました。 | よく し |

３時間目

ALT が言っていることを聞き取ることはできたが、本当の意味での理解は不十分であった。例えば、ALT が I like <u>bannock and bison or elk burgers</u>.と言った際に、生徒は下線部がどういうものなのかは理解していない。それでは相手を本当に理解したことにはならないと伝えると、生徒たちはどうすればよいかを再度考え始めた。

この授業では、イラストを説明するゲームを通して、①説明してもらう（分からないことを明確にする）、②類似したものを例に出す（考えるためのヒントを得る）、③質問する（具体的に聞く）をスキルとして練習した上で、解決策を考えさせた。生徒にとって抽象から具体へのアプローチは難しいように思えたが、それぞれが必要感をもって活動に取り組み、ALT にどのような質問をするかを真剣に考える姿が見られた。

【生徒の振り返り】

3時間目

| 日付 | 学習課題 | 本時を通して考えたこと・印象に残ったこと | 今の心境！ |
|---|---|---|---|
| 11/2 | 話している内容を深く理解するには？ | 公園のプリントで練習したときに、意外とむずかしかったけど、写真がどれかを当てるための質問を考えるときは班の人といい質問を考えられました。 | >< |

4時間目

前時で考えた解決策をもとに、グループごとに ALT と話して内容の確認を行った。手に入れた情報が本当に正しいかどうか、写真やイラストを用いて確認を行った。生徒たちは活動を楽しんでいたが、時間的制約があり、ALT と個人が関わる時間が短くなってしまった。また、英語力の差によって、他人任せにしてしまう生徒も見られた。

【生徒の振り返り】

4時間目

| 日付 | 学習課題 | 本時を通して考えたこと・印象に残ったこと | 今の心境！ |
|---|---|---|---|
| 11/7 | 相手を深く理解するためには？ | 今まで学んできたやり方と、質問のしかたをつかって、情報を的確にうけとれるようになりました。（前より）でも、3のときは、何の質問が最適かが分からなくて、うまくきき出しにくかったです。くやしい！ | >< 楽しかったけどむずかしかった！3が |

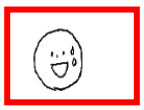
生徒の試行錯誤を促すためには、教師主体ではなく、生徒主体の授業展開が必要である。今回の実践では、生徒の思考に沿った課題設定や、グループごとの試行錯誤の時間を取り入れた。グループ全体として成功体験を得ることはできたが、個人での問題解決には至らず、コミュニケーションの喜びを実感できなかった生徒もいた。全ての生徒にコミュニケーションの喜びを実感させるためにはどうすればよいか、今後の課題である。

**研究内容（３）学びをつなぐための振り返りの工夫**

毎授業の最後に、自分の心境と本時を通しての学びを記述する振り返りを行った。そして単元終了時に、自分の心境や考えの変化を振り返ることで、学びがつながるようにした。

＜生徒の振り返り＞

**1時間目**

| 日付 | 考えたこと | 今の心境を表現してみよう! |
|---|---|---|
| 5/17 | 英語で詳しく説明することがむずかしかったです。しっかりと伝わるように発音も気をつけないといけないなと思いました。しっかりと原稿をつくって、正確な発表をしたいです。 |  |

**2時間目**

| 日付 | 考えたこと | 今の心境を表現してみよう! |
|---|---|---|
| 5/19 | 発音を調べて少しずつ理解できるようになりました。自分で考えた文で、少しずつ清書できたのでよかったです。ハキハキと言えるように気を付けたいです。覚えられるよう、がんばります。 | |

**3時間目（本番）**

| 日付 | 本時を通して自分の中で大きく印象に残っていること（嬉しかったこと・悔しかったこと）と その理由 | 今の心境を表現してみよう! |
|---|---|---|
| 5/23 | たくさんの質問をして、いろいろなことが知れました。伝わってよかったし、会話できました。少し通じないところもあったので、そこは悔しかったです。もっとキレいな発音をしていきたいなと思います。たくさん話せてとても楽しかったです。日本のこともしっかりと言えました。少しむずかしいかなと不安だったけど、できてよかったです。 | |

心境をイラストで表現することにより、その生徒にとって本時がどのような１時間だったかを視覚化した。心境の変化を記録することで、生徒が単元全体を振り返ったときに、自身の変化を見取りやすくすることができた。しかし、何によってその変化が起こったかが不透明であった。今後はその理由等も記述させたい。振り返りの見取りを通して、教師が講じた手だての有効性を確認するとともに、授業改善につなげたいと考える。

## 成果（○）と課題（●）

**研究内容（１）コミュニケーション能力を段階的に獲得するためのカリキュラム設計**

○　段階に応じたスキルを獲得させることにより、英語やコミュニケーションストラテジーを使って会話を継続しようとする生徒の姿勢を育むことができた。

●　同じカリキュラムで学習をしても、必ずしも全ての生徒がコミュニケーション能力を確実に獲得できるわけではない。生徒一人一人の習熟度を見極め、臨機応変に授業を展開したりカリキュラムを修正したりする必要がある。

**研究内容（２）試行錯誤しながら自分の考えや気持ちなどを伝えるための単元構成の工夫**

○　英語を使う目的・場面・状況を明確に設定することで、生徒は意欲的に活動に取り組むことができた。

○　グループ活動を取り入れることで、自分にはなかった新しい見方・考え方に触れ、課題解決に向かって協働的に活動する生徒の姿が見られた。

●　他に任せきりになり、課題に真剣に向き合えていない生徒もいた。個人で考えたり実践したりする場面も必要である。

**研究内容（３）学びをつなぐための振り返りの工夫**

○　単元の前後に同じアンケートを実施することで、単元を通しての生徒の変容を見取ることができた。

○　生徒の感情を表出させることによって、それぞれがどのような気持ちで授業に取り組んでいたか、また単元全体を通しての変化が見取りやすくなった。

●　教師の手だての有効性を判断するために、振り返りの内容や書き方の工夫が必要である。